

報道機関 各位

熊本大学

崎津・今富地区の文化的景観整備が「2022年度
グッドデザイン賞グッドデザイン・ベスト100」
及び「土木学会デザイン賞優秀賞」を受賞

大学院先端科学研究部の田中尚人准教授及びくまもと水循環・減災研究教育センターの星野裕司准教授が携わってきた、天草市「崎津・今富地区の文化的景観整備」がこのたび、「2022年度グッドデザイン賞グッドデザイン・ベスト100」及び「土木学会デザイン賞優秀賞」を受賞しました。

グッドデザイン賞は、公益財団法人日本デザイン振興会が運営するもので、1957年に創設され、社会を良い方向に導く力を持つデザインを発見し、社会に広げるとともに、新たなデザインの創出につなげていくことを目指すものです。今回は5,715件の審査対象の中から、1,560件の受賞が発表されました。

土木学会デザイン賞は、公益社団法人土木学会景観・デザイン委員会が主催する顕彰制度で、2001年に創設され、計画や設計技術、制度の活用、組織活動の創意工夫によって周辺環境や地域と一体となった景観の創造や保全を実現した作品及びそれらの実現に貢献した関係者や関係組織を顕彰するものです。今回は30件の審査対象の中から、最優秀賞3件、優秀賞7件、奨励賞7件が選定されました。

田中准教授は、2006年4月に熊本大学に赴任し、同年12月からユネスコ世界文化遺産のコアゾーンになっている崎津地区のまちづくりに約17年間携わってきました。2012年度からは現地にて熊本大学文化的景観保全研究センター（通称「とみつラボ」）を運営し、地域住民や天草市役所などの協力のもと、崎津・今富地区の景観づくりに携わっています。今回の受賞では「景観まちづくり」のディレクターとして評価されました。

星野准教授は、両賞の受賞に大きく貢献した中心人物「デザイナー」として、数多くの公共施設、そして幅の広い景観デザインの中心業務を担いました。地域住民や天草市役所との対話を基に、足繁く現場に通い、持続可能な公共空間づくり、景観デザインを実践してきました。

なお、2022年12月25日（日）には、天草市河浦町富津地区コミュニティセンターにおいて、「崎津・今富地区の文化的景観整備グッドデザイン賞グッドデザイン・ベスト100・土木学会デザイン賞優秀賞受賞報告会」が開催され、馬場昭治天草市長、金子邦彦副市長及び地域住民約60名が参加しました。

また、同賞の受賞者には、両教員の研究室の卒業生・修了生たちも名を連ね、教員と学生が地方自治体や地域住民らと継続的に協働を行ってきた、持続可能な地方創生に対する熊本大学の地域貢献の好例と言えます。

（詳細）

<https://www.kumamoto-u.ac.jp/whatsnew/sizen/20221228>

【お問い合わせ先】

熊本大学大学院先端科学研究部

担当：准教授 田中尚人

電話：096-342-3536

e-mail：naotot@kumamoto-u.ac.jp